令和８年度 第２回 伊予市学校適正規模・適正配置等審議会 議事録

開催日時：令和８年９月２８日（月） 19:00～
開催場所：伊予市役所３階　庁議室
出席委員：１２名
傍聴者：1名

１　開会

２　会長挨拶

会長より、台風等の悪天候の中での出席に対する謝辞と、活発な意見交換への期待が述べられた。

傍聴希望者１名について、傍聴要領に基づき許可したことについて報告があった。

３　議題

（１）学校施設の現状について
（２）学校区について
（３）その他（コミスク・部活動地域展開）

（事務局）

－事務局より各議題の説明－

⑴学校施設の現状（老朽化状況や健全度等）（※資料１）について

適正規模・適正配置を検討する上で、児童生徒数だけでなく施設の老朽化や健全度、将来の維持更新費用を把握することが重要であること等を説明。

⑵通学区域制度（※資料２）について。

伊予市では居住地に基づく通学区域制度をとっていること及び校区外通学、現状の通学手段等について説明。

⑶その他（コミスク・部活動地域展開）について

コミュニティ・スクールと部活動の地域展開の取組と現状について説明。

（会長）

事務局からの説明について質問や意見等はないか。

―　特に意見等なし　－

４　グループワーク（ワークショップ）

３つのテーマを設定し、ワールドカフェ形式で意見交換を実施した。各テーマにおける主な意見は以下のとおりである。

【テーマ①】学校規模と未来の魅力ある学校づくり

「未来の魅力ある学校づくり」に向け、子どもたちにとって望ましい学校のあり方とは何かを検討するため、小規模校および大規模校のそれぞれのメリット・デメリットや、「魅力ある学校とは何か」について話し合った。

○小規模校のメリット（良さ）

・きめ細やかな指導と自主性：一人ひとりに目が行き届きやすく、自主性が伸びることが期待される。
・活動の機会：一人ひとりの活動の場（役割など）が自然と多くなる。
・地域との強いつながり：地域住民の関心や関わりが深く、地域の良さが感じられるような密なふれあいが生まれる。

〇小規模校のデメリット（課題）
・人間関係の固定化と閉塞感：児童・生徒数が少なく人間関係が固定化しやすいため、多様な環境でもまれづらいという懸念がある。
・社会性や競争力の懸念：集団での競争力がつきにくいという見方がある。
・運営上の課題：単級の学級における運営上の課題や、施設管理の負担がある。
・その他：教育移住や交換留学制度の導入検討。

〇大規模校のメリット（良さ）
・多様な体験と選択肢：多様な体験ができ、部活動などの選択肢が広がる。
・集団での育ちあいや競争力：十分な人数の中で、友達と協力し合いながら団体行動力や競争力が身につく。
・人間関係の広がり：中学校段階などでは、クラス替え等を通して人間関係を広げることが重要である。

〇大規模校のデメリット（課題）
・トラブルや運営の課題：人間関係のトラブル、部活動や学校行事に関する課題が生じやすい。また、児童・生徒数が多いことで細かなケアが難しくなる側面がある。

〇「魅力ある学校」・「子どもたちにとって良い学校」とは
・複式学級の解消を基準の一つとしつつ、小規模校・大規模校それぞれの良さをどう活かすかが重要である。

【テーマ②】通学負担・生活環境の変化を緩和するための対策について

学校再編に伴う、児童・生徒の通学時における物理的・精神的な負担を軽減するための現実的な解決策や配慮すべき事項について意見を出し合った。また、バス運行の安全確保、費用負担、行政に求める役割などについて議論された。

〇通学手段の確保と運行体制に関する検討
・安全な通学路の確保を大前提とし、多様な交通手段や運行の仕組みを検討する。

〇公共交通・既存インフラの活用
・JR の利用促進や、通学ルートに合わせたバスのダイヤ・運行時間の調整。
・他施設の公用車・遊休車両の有償活用。

〇新たな移動支援の仕組みづくり
・乗り合いタクシー等の仕組みづくりや、住民による移動サービスの可能性の検討。
・スクールバスを地域住民など多様な人が利用できる仕組みにすること。

〇運営主体とコストの負担
・スクールバスの運営を、コミュニティ・スクール（地域学校協働本部等）の運営協議会に委託する。
・スクールバス運行にかかる費用負担（個人負担か市負担か）の整理。
・運行を担う事業者の確保。

〇保護者・家庭への配慮と周辺環境の課題
・保護者による送迎が必要となった場合の駐車場の確保。
・登下校時や移動中の安全・安心の徹底。

〇児童・生徒の生活環境・心理面への配慮
・環境変化による不安等に対する「心のケア」の必要性。
・児童クラブは、これまで通り「旧校区」で継続して利用できるのが良い。
〇地域社会・学校運営との連携
・コミュニティ・スクールとの密接な連絡調整。
・部活動の地域移行との関係づくり。
〇校区のあり方の見直し
・「校区をなくす」など、児童・生徒の集め方自体を柔軟に検討する。

【テーマ③】学校跡地を活用したコミュニティの維持および向上について
学校の統廃合に伴う「地域の衰退に対する不安や危機感」を背景に、既存の「学校があることで保たれていた地域関係性」をどう再定義し、跡地を新たな地域拠点として持続的に活用していくか話し合った。

〇既存組織・仕組みの発展と新たな関係性づくり
・住民自治組織を基盤とした運営の検討。
・学校運営協議会の発展的取り組み。
・学校と地域の新たな関係性の再定義。
〇跡地・校舎の具体的な活用アイデア
・福祉・コミュニティ機能：高齢者の居場所、子育て支援、地域食堂、サロンなど。
・産業・経済機能：地域スーパー、キノコ生産、ゲストハウス、催し場、フリーマーケットの開催、民間の力を活かした「物流拠点」としての活用。
・運用・管理の工夫：毎日フル稼働させるのではなく「週3日利用」など持続可能な運用頻度の検討、成功事例の参考、地域おこし協力隊などの担い手の確保。
・防災・広場化：建物を取り壊してボール遊びができる広場にする（地域防災拠点としての機能維持は必要）。
〇施設・財政面に関する課題（ハードと維持管理）
・建物の老朽化や耐震性、継続的な維持コストに対する懸念。
・耐震化の実施（耐震化の必須化、および「耐震化して譲渡する」案）。
・自治体や外部による維持費用の負担・支援。
・中長期的な「今後の活用方針」の策定による方針の明確化。
〇運営を支えるヒト（人材・労働環境）の確保
・ボランティア頼みではなく、適正な人件費が出る仕組みにすること。
・地域を支える人材育成の必要性。

（会長）
ありがとうございました。それぞれ意見もあって、活用できる部分は活用していければ良いと思う。希望を踏まえながら、色々な人たちのニーズを聞きながら今後、進めていくことが出来れば良いと思う。
＜① 学校規模と未来の魅力ある学校づくりについて＞
魅力ある学校づくりの議論を振り返ると、学校規模によって小規模校・大規模校それぞれに良さがあると感じている。もう少し多様な観点から意見を出し合い、それぞれのメリットやデメリット、そしてそのデメリットをどう改善・活かしていくかを明確にしていく必要がある。統合を行う場合でも、大規模校だけでなく、統合後の小規模校としてどのような取り組みができるのかといった点も含めて考えていけたらいいと思っている。今後

は、皆さんの希望や、さまざまな人々のニーズを丁寧に聴き取りながら進めていくことが大切であると考えている。

＜② 通学負担・生活環境の変化を緩和するための対策について＞

通学負担の課題については、距離が遠くなることによる安全性や心の問題をどう捉えるか、またその費用負担を誰が担うのかという問題がある。スクールバスの委託先についても民間のバス会社だけでなく、住民力が問われる部分もあるが、学校運営協議会などを通じた住民によるサービスの活用も考えられるのではないか。基本的にはこれまでの状況をしっかりと調べた上で、不公平感をなくす方向で考えていけばよいと思っている。また、校区をなくして行きたい学校に行けるようにするような新しい発想も含め、個人での負担のあり方なども含めて、不公平感をなくすような方向性についてご議論いただければと考えている。

＜③ 学校跡地を活用したコミュニティの維持および向上について＞

学校跡地の活用については、運営経費の観点から指定管理のような形で施設の管理を委託する手法も十分に考えられる。また、地域のことを知る場や社会教育の場として、やりたい人が主体的に活動できる場にすることや、企業経営の場・農業の拠点・ゲストハウスといった形での活用も想定される。地域のニーズに応じて、建物を解体して広場にすることも選択肢の一つではあるが、防災上の避難所としての位置づけに関わる部分についてはしっかりと整理していかなければならないため、そこは市がしっかりと関わっていく必要がある。

本日はワークショップという形でご協力いただき感謝している。本日の内容を事務局の方でまとめてもらい、皆さんに共有する。今後の議論の参考にしていただければと思う。

今後も、負担を軽減しながら自由に話ができる環境を作りつつ、次回以降も進めていければと考えている。以上でワークショップを終了する。

５ その他

－事務局より説明－

（１）次回開催日程について

６　閉会